

## 少人数学級の実現を求める意見書

コロナ禍の中で、子どもも学校も多くの不安と心配を抱えている。

今、新型コロナウイルス感染防止対策で、学校教育の現場でも身体的距離の確保が重要である。しかし、40人学級の教室では子どもたちの身体的距離がとれず、「密集状態」となっている。これを避けるためには少人数学級にする必要がある。もともと学校は一人一人の子どもとじっくり向き合い、悩みに耳を傾け、個別の指導をすることが大切であり、現場からは、40人学級でなく少人数学級実現の要望が強く出されている。日本教育学会は、以前から20人前後の少人数学級が望ましいという見解を示していたが、コロナ禍で十分な教育を保障するために教員を10万人増やすことと、抜本的に教育予算の増額を提案している。

7月3日には、全国知事会・全国市長会・全国町村会は連名で政府に「少人数編成を可能とする教員の確保」を要望している。また、7月17日に閣議決定された「骨太方針2020」でも「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的整備」の検討を提起している。

来年度予算編成にあたって、少人数学級に踏み出す予算措置を実現することが、教育関係者の強い要望になっている。こうした状況を踏まえて、下記の措置を講じられるよう強く要請する。

### 記

- 1 安全・安心で、ゆきとどいた教育実現につながる少人数学級を速やかに実現するため、必要な措置を講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年9月18日

岩手県住田町議会

議長 瀧本 正徳

様

意見書を提出する機関

- ・内閣総理大臣 菅 義 偉 様
- ・財 務 大 臣 麻 生 太 郎 様
- ・文部科学大臣 萩生田 光 一 様